# 事務事業評価シート

（平成 24 年度実施事業）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 上下水道事業経営審議会関係事務 | | | 事業コード | 1172 |
| 所属コード | 902500 | 課等名 | 上下水道局経営企画課 | 係名 | 企画係 |
| 課長名 | 石橋　俊一 | 担当者名 | 飯冨　理恵 | 内線番号 | 6233 |
| 評価分類 | ■ 一般　□ 公の施設　□ 大規模公共事業　□ 補助金　□ 内部管理 | | | | |

## 1　事務事業の基本情報

(1) 概要

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 総合計画体系 | 施策の柱 | 快適な都市機能 | コード | 7 |
| | 施策 | いつでも信頼される上水道事業の推進 | コード | 5 |
| | 基本事業 | 経営の効率化 | コード | 3 |
| 予算費目名 | 水道事業会計　１款１項 80 目　総係費（000-00）<br>下水道事業会計　１款１項 70 目　総係費（500-01） | | | |
| 特記事項 | | | | |
| 事業期間 | □単年度　■単年度繰返　□期間限定複数年度 | | 開始年度 | 昭和 50 年度 |
| 根拠法令等 | 盛岡市上下水道事業経営審議会条例 | | | |

(2) 事務事業の概要

上下水道事業の経営に関する重要な事項を調査審議させるための市長の諮問機関である。基本的には年２回(８月，２月に)開催する。委員の任期は２年である。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

水道事業の経営に関する重要な事項を調査審議されるための市長の諮問機関として，昭和 50 年に設置した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

水道事業と下水道事業の統合に併せて，平成 22 年度から下水道事業に関しても審議をしていただいている。

## 2　事務事業の実施状況（Do）

(1) 対象（誰が，何が対象か）

経営審議会委員

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

| 指標項目 | 単位 | 22 年度実績 | 23 年度実績 | 24 年度計画 | 23 年度実績 | 26 年度見込み |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A 委員数 | 人 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| B | | | | | | |
| C | | | | | | |

### (3) 24 年度に実施した主な活動・手順

上下水道事業経営審議会の開催

・審議会　年２回（８月 22 日，２月 20 日）

・先進都市地視察（11 月１日～２日　会津若松市及び山形市）

### (4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

| 指標項目 | 単位 | 22 年度実績 | 23 年度実績 | 24 年度計画 | 24 年度実績 | 26 年度目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A 審議会開催回数 | 回 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| B 議案件数 | 件 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| C 視察回数 | 回 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |

### (5) 意図（対象をどのように変えるのか）

市長の諮問機関として，経営審議会委員から上下水道事業の経営に関する重要な事項について様々な分野から意見を出していただく。

### (6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

| 指標項目 | 性格 | 単位 | 22 年度実績 | 23 年度実績 | 24 年度計画 | 24 年度実績 | 26 年度目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A<br>審議会出席率 | ■上げる<br>□下げる<br>□維持 | % | 79 | 80 | 100 | 93 | 100 |
| B<br>視察参加率 | ■上げる<br>□下げる<br>□維持 | % | － | 73 | 100 | 47 | 100 |
| C | □上げる<br>□下げる<br>□維持 | | | | | | |

### (7) 事業費

| 項目 | 財源内訳 | 単位 | 22 年度実績 | 23 年度実績 | 24 年度計画 | 24 年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | ①国 | 千円 | | | | |
| | ②県 | 千円 | | | | |
| | ③地方債 | 千円 | | | | |
| | ④一般財源 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ⑤その他(　　) | 千円 | 199 | 205 | 1,549 | 852 |
| | A 小計 ①～⑤ | 千円 | 199 | 205 | 1,549 | 852 |
| 人件費 | ⑥延べ業務時間数 | 時間 | 250 | 250 | 400 | 380 |
| | B 職員人件費 ⑥×4,000 円 | 千円 | 1,000 | 1,000 | 1,600 | 1,520 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 計 | トータルコスト A＋B | 千円 | 1,199 | 1,205 | 3,149 | 2,372 |
| 備考<br>24 年度は先進都市視察を実施 | | | | | | |

## 3　事務事業の評価（See）

### (1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

#### ① 施策体系との整合性

結びついている

理由：上下水道事業の経営に関する意見を委員から求める場であり，効果的，効率的な事業運営に反映させるために必要である。

#### ② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：上下水道事業の経営に関する重要事項を調査審議させるための市長の諮問機関であることから，市で行うことが妥当である。

#### ③ 対象の妥当性

現状で妥当である

理由:経営審議会委員は，上下水道使用者及び知識経験者を有する者から広く構成され，各分野の団体等からの推薦により委員を委嘱している。

#### ④ 廃止・休止の影響

影響がある

内容：経営審議会は市長の諮問機関であり，廃止，休止は考えられない。

### (2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がない

理由：各委員とも職業を有しており，平日開催のため欠席者が出るのはやむを得ない。

### (3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

・受益機会の適正化余地

特定の受益者はいない

・費用負担の適正化余地

特定の受益者はいない

### (4) 効率性評価

・事業費の削減余地

削減できない

内容：目的とする効果のために必要最低限の経費である。

・人件費の削減余地

削減できない

理由：目的とする効果のために必要最低限の経費である。

## 4　事務事業の改革案（Plan）

### (1) 改革改善の方向性

先進都市視察の実施について，実施頻度等を含め検討する。

### (2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

先進都市視察の実施にあたっては，その目的や効果を見極めながら実施する必要がある。

## 5　課長意見

### (1) 今後の方向性

□　現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）

■　改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）

□　終了・廃止・休止

### (2) 全体総括・今後の改革改善の内容

上下水道事業の経営に関する重要な事項を審議するための会議であることから，予算・決算等に関する審議はもちろんのこと，計画や構想，アセットマネジメント等，今後の経営戦略にについて積極的に議論していただきたい。先進地視察については、必要に応じて実施してゆく。